

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874002278		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホーム CHIAKIほおずき姫路高岡		
所在地	兵庫県姫路市山吹1丁目3番25		
自己評価作成日	平成29年3月20日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=2874002278-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成29年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

CHIAKIほおずき姫路高岡では、ほおずき理念のもと利用者の居場所づくりも、大切にしており、生き生き体操の実践から、今では、リズム体操・ボール体操・口腔体操、脳トレを意識したパズルや個々のレベルにあった計算問題、自立支援を意識した、自席での食器、お盆拭き・洗濯物干し、たたみを日常の中で、継続することにより、利用者同士が会話も増え、良い意味での、何でも話せる間柄になっているように感じています。年を重ねるにつけ、高齢化が進みますが、28年度は今まで以上に食事面はもちろん生活面の両面から意識して手洗いうがいの励行は日常化している上に室温・服装などにもより意識を持ち、声掛けで出来ないところは、職員がさりげなく調整することで、風邪やインフルエンザ、ウイルス性腸炎など誰一人としてかかることもなく春を迎えました。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設13年目となり、しっかりと地域になじみ根付いている。兵庫県下に17事業所(姫路市内に7事業所)があり、法人内の連携(交流・研修・会議・事例発表等)が強みとなっている。特に年1度の「事例発表会」は、職員のモラルアップやチーム力啓発の機会となっている。今年度から新たに4つの委員会が発足し、エリア単位に活動がされる。事業所は法人の理念や基本方針に基づき、独自のテーマを掲げて、管理者の指導の下で職員一体となり実践に取り組んでいる。目標達成計画の進捗でも着実に取り組まれている。「えみがこぼれる家庭…」を目指して、「人として向き合い、その人を理解し、その人らしく生きられる」パートナーとして、自立支援や健康管理に努められ、アットホームな落ち着いた笑顔のある生活が窺える。今後とも期待できる優れた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55まで日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果	項目	取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼礼時ほおずき理念の唱和を行い、基本方針も意識しながら、日々実践に繋げている。	法人の基本理念『えみがこぼれる家庭・・・それが私のほこりです』に向かい、事業所では実践テーマとして「真心こめて信頼と安心を届けよう」を掲げ、利用者を自分の親や家族のように、仕事としてではなく真心を込めて介護している。また、「グループホームのこだわり」も「障害」から「障がい」と言葉にもこだわり変更した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・子供会・婦人会の行事に参加、秋祭りには、駐車場を休憩場として提供し、ふれあい喫茶にも参加したり、地域の方とも、道で出会えば立ち止まり話したりしている。	地域の自治会には開設時から加入し月々の会費も納めている。このため地域の回覧板もまわり、また運営推進会議にも地域の理解がある。付き合いとしては、季節のお祭や行事への招待があり、地域の人の介助もある。また、地域からのボランティアもある。中学のトライアルウィーク、小学校の事業所訪問、地域の清掃活動への参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や掲示板を活用したり、認知症専門士がいる施設として、ネットで検索出来るようにし、問い合わせがあれば、相談の応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用されている、薬局・歯科などの方の協力を得て、担っている役割を伝えてもらったり、利用者様の状況と照らし合わせた報告をして頂いたり、家族様からの質問答えてもらったりと、サービス向上につなげている。	複数の利用者及び家族・民生委員・自治会長・老人クラブ会長・地域包括支援センター職員・知見者・事業所職員等をメンバーとして2か月に1回開催している。運営状況の報告だけでなく意見交換・相談等も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会・市町村主催の研修会や講演会に参加し、今回は城乾・東光のケアマネジメント向上会議に事例提供を行い、協力関係が築けるよう努力している。	事業所単独での相談等はその都度行う。年に4回開催される市内のグループホーム連絡会でも、必要に応じて市の担当者の出席もあり制度改正時の説明等を受けている。また、地域包括支援課からは、ケアマネジメント研修の事例提供依頼や研修参加案内がある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の管理者研修時など身体拘束委員会を開いて事案の確認を行っている。1階が定休日は不審者対策として、1階の自動ドアの施錠はしている。	施錠は、職員への指導により利用者が外に出たい時にはいつでも出れるという思いが持て、安心感につながるまでは同行等でその都度対応している。法人内の身体拘束委員会の事案を受け、事業所内でも年2回の勉強会を行っている。また、事業所では身体拘束は行わないという方針を家族にも理解してもらっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年6月に高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を作り、又ニュースなどの虐待情報の共有を行い、虐待についての意識の向上を目指し、防止に努めている。	事業所の年間研修計画で年2回身体拘束禁止研修とともに虐待防止研修を行っている。介護では認知症利用者への制止や抑制につながらないように声かけや対応を工夫し、職員は管理者や他の職員と気持ちを共有して、ストレス等を感じないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の事例から、職員と話し合いの機会を作り勉強している。又パンフレットも設置している。	現在1名の成年後見制度利用者がある。管理者は市の成年後見支援センターからのパンフレット等の資料で家族に制度を伝えた。運営推進会議でも以前議題として取り上げ、地域包括支援センターとも連携している。今後も地域の関係者にも理解を深めてもらうため取り組む。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を頂き、質問や疑問など。その都度確認しながら、契約の締結を行っている。	利用者の事業所の選択は、家族や利用者の事業所見学から始まり、入居のしおりに基づいて料金等についてもわかりやすく説明している。利用者の現在の生活や利用中のサービスは訪問により確認し、入所の意向を確認後に事業所で契約を行っている。また、その際には利用者の重度化時の対応についても説明し、文書による同意ももらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望などは運営推進会議などで反映し、(歯科医師・薬局)また定例会議にも報告したり、勉強会につなぐなど努力している。	利用者の事業所での様子報告は面会時と、2ヶ月に1回発行の事業所便りで行っている。また、7月には家族交流会を通所介護の休業日1階の場所を使い、利用者、家族、職員を交えた総勢60人位で茶話会を開催している。家族意見で、預かり金の返却よりも時には外注食等への有効利用を検討して欲しいとの要望があった。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ここ3年ほど、アンケート調査と題し直接代表者に意見が伝わるようになってきている。管理者は個別に職員の思いや意見などを、聞く機会を(マイチャレンジ)多く作る努力はしている。	法人で年2回の職員アンケートを実施し、職員の要望等も法人に直接届いている。内容により、法人全体や各事業所に戻されて検討や取り組む事がある。また、事業所内では職員が各個人で「マイチャレンジ」という目標設定を実施し、管理者が思いを聞き寄り添う事を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マイチャレンジを活用し職員の思いをしっかりと受け止め、日々職員の状況を把握できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・ステップアップ研修などほおずき内での研修を活用したり、又市などの研修の参加の促しなどを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、市の勉強会、研修など参加し意見交換など、お互いのサービスの質の向上などに活用している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は信頼関係の構築が未熟なため、コミュニケーションに力を入れる努力をして、利用者様の安心を確保できるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりと家族の話に耳を傾け、困っていることが入居と同時に改善することはなく、こちら側も家族の協力をもらいながら、利用者の事を考えてもらいながら関係作りに、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思い・本人の思いを確認しながら、自施設のハード面とも比較しながら、家族に話をしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たとえ車椅子の方であっても、自席にて、出来る事があれば、その時の状況も踏まえながら、手伝って頂いたり、暮らしの一場面として参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状を家族に報告・連絡・相談し状況により職員、家族と一緒に病院受診をして本人の事を知っていただけるように、関係を築いていっている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、友人・知人が来訪出来る環境を整えたり、なじみの場所に行けるように、普段から健康管理努めている。	以前は年1回、誕生月に馴染みのある場所や希望の場所等に外出していたが、利用者の重度化により現在はデイサービス利用者等を中心として関係継続の支援を行っている。事業所内での安全な交流ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態を日々把握しながら、状況に応じて、楽しく関わられるような席の配置にしたり、気の合う方どうし職員も一緒に散歩に行き信頼関係を深められるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の手続き時には、何かあればいつでも連絡していただいでよいことなど、お伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で話が出来方には、確認したり、困難な方には、家族に報連相したり、状態が日々変わるような方には、本人本位になるように、努力している。	アセスメントは利用者のその人らしいケアを目指すセンター方式を使い、利用者の背景を日々の会話等のかかりの中で深め、介護計画作成等に生かしている。特に、新規入所の利用者が旧知の人であったりした場合は昔の話し等の話題も広がり、利用者個人の背景を聞くことができる事もある。職員は常に聞く事を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況や、長年の暮らし方などわかる範囲で、家族の協力のもと、バックグラウンドとしてこちらで把握するように努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々意識しながら観察して、みんなで共有、把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、意見を述べたり、家族の思いを伝えたりして、計画を作成している。	前回の評価で、家族も担当者会議への参加を目標達成計画に上げ取り組むも、利用者の家族も高齢でもあるため、計画作成担当者が計画作成時や見直し時に事前に家族に声かけを行い、面会時等に聞き取って計画に落とし込んでいく。このため、家族に直接の出席はないが、意見を反映した計画であり、職員も意向を基に検討し作成している。モニタリングは計画に基づいて日々の取り組みを記録し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書を個人のケースに入れ、いつでも確認出来るように意識付けて、日々の実践を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況もふまえながら、その時に出来る支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶など地域資源を活用し、散歩がてら、ご近所さんとの笑顔溢れる、楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居したからと、今までの主治医と縁が切れる訳ではないことを、家族にしっかりと伝え一度に環境を変えないよう、又家族の状況なども把握したうえで、適切な医療が受けられるように支援している。	家族対応での受診は入所前からのかかりつけ医に3名の利用者が継続している。入所後の協力病院への受診は6名、訪問診療の受診は7名等それぞれの希望に応じて受診できていて、事業所も安心して医療との連携が行えている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を把握して、看護師に報告・連絡・相談して指示を、仰いでいる。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態の把握の為に、病院に度々、足を運び看護師や地域連携室や、ドクターに確認、相談して、関係づくりを行っている。	平成28年度は転倒によるものと延命希望で2名が入院し、平成29年度は1名が入院した。それぞれに医師から紹介され家族の希望する病院に入院できている。入院時の医師からの病院への紹介と事業所からの情報提供、看護師からの入院状況と回復度合い等の確認、退院前カンファレンスの開催等の一連の連携がスムーズに行えている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様・ドクター・看護師たちと話し合い、出来る事・出来ないことを相談しながら、家族の了解のもと、チームとして取り組んでいる。	入所契約締結時に看取りの説明を行い同意書も記入されている。しかし、入所後も状況変化があり、必要時に家族の意思や協力の確認および医療対応の可否等によって調整している。平成29年1月に訪問診療により一人を対応した。救急搬送時等の処置等の意思確認の同意書は現在は整備できてない。	救急搬送時等の医療機関での処置に対する同意が確認できる書類を事業所で検討し、法人全体でも使用できる取り組みを期待したい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、看護師による勉強会を行ったり、必要時(不安なことがあるときなど)看護師に前もって、確認したり、実践に発揮出来るように意識している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で施設の勤務体制など伝え協力をお願いしたり、夜間参集訓練を行ったりと、避難できるように意識付けしている。	地域に消防団はないが、市の消防署が近くにあり事業所の様子は実際に訪問により理解してもらっている。訓練は火災以外に土砂災害や水害想定訓練を行い、職員は夜間に事前に知らされずに自宅から近くの事業所へ参集する訓練も行った。マニュアルは、各事業所で検討して作成し、一旦法人に提出し、法人が取りまとめて市に提出した。運営推進介護で地域の協力を求め、備蓄も行っている。	災害時の地域の協力体制の確保のために、地域の関係機関の連絡網の整理を運営推進会議で取り上げ、また、水害時対策では建物内での垂直避難のシュミレーションを行う事を期待したい。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩という気持ちを持ち、対応している。	理念に添って業務を実践している。 入浴、排泄、食事、居室の出入り等生活全般のかかわりを項目別に分けたサービス提供マニュアルはあるが、個人の尊重やプライバシーの確保を特化したマニュアルは確認できなかったが、実践では行われている様子が見受けられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今から何がしたいか、ご飯で食べたいものは何かなど、献立をたてる時に聞いたり、散歩がてら買い物に行った時など、ゆっくりと店内を見て回り欲しいものを購入できる環境を提供できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	中々その日をどのように過ごしたいかまでは、希望を聞くことは出来ていないが、今から何しましょうか？など聞くように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を梳いたり、ネックレスをするなどその人らしい身だしなみが、出来るように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歯の状況などしっかりと把握して、個々の状態に応じた形態で食事が、楽しめるように又、自席にての食器拭き・玉ねぎの皮むき・もやしの根とりなど参加してもらっている。	食材は主に外部の事業者より調達している。週2回程度は職員が買い出しをするが、利用者の同行は出来ない。利用者のできることは職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。職員も共に食事をし介助や会話をしながらアットホームなひと時を楽しんでいる。1階にある家庭菜園ではホーレンソウ等を育て、利用者も収穫に参加して献立に取り入れている。月1回程度はホットケーキ等のおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、傍につき食事の見守り・一部介助を行い、水分・食事バランスはおかゆにしたり、あんかけにしたり、など臨機応変に対応するように努力している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助・見守りが必要な方には、その都度行っているが、声掛けだけの方や歯ブラシに歯磨き粉を付ける介助のかたもある。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘の方や下痢の方など、状況を把握して、家族の協力や医師への報連相で改善に向けてケアをしている。	おむつの使用者は1名いるが、紙パンツや布パンツにパット使用者が多い。布パンツで自立している人も数名いる。夜間のポータブル使用者も1名いる。一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握して、トイレでの排泄の自立にむけた支援を行っている。便秘の予防等でも医師との連携に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や身体的な疾病など医師への報連相も行いながら、日々の状態を把握、共有して臨機応変に対応するように努力している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝に入浴の声掛けを行い、タイミングが合うようにしているが、すべての方の希望が聞けていることもない。	入浴は週2回以上、午前・午後を基本にしているが、本人の希望やタイミングで柔軟に対応している。毎日入浴される人もいる。浴槽はホームタイプでゆったりとしている。リフトや機械浴等を行っていない。菖蒲湯など季節の湯や入浴剤も楽しんでもらう。デイサービスの休日には大型の浴槽も利用していたが、最近行っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の為に、日中の活動性を考えたり、日に当たったり、水分の内容(コーヒーなどのカフェイン)を考えて提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々のケースに入れ、いつでも確認出来るようにして、変更などあれば、意識して病状の変化の確認に努めている。必要な方は必要な時間にバイタル測定をして内服している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気の合う方と楽しく笑顔で、過ごせるように話の合う方と同席にしたり、話が好きな方には好きだけ話してもらえるように、傾聴して個々の気分転換に気を付けている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中々希望にそっての(職員付き添い)外出はすべての方には来ていないが、家族の協力のもと、本人の希望するところに、外出できている状況である。	日常的には本人の希望や体調で、近隣の公園や周辺の散歩に出かける。公民館で2ヶ月に1回開催される「ふれあい喫茶」に参加される人もいる。高齢化が進みドライブや外食等の外出支援は参加者が限られる。利用者の誕生日には個人の希望に沿った外出支援をしていたが、最近では来ていない。家族の支援で往診や散歩・外食に出かける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持をしている方は何名かおられる。その方はお金の大切さも理解され、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	早朝や夜間など、緊急性がない時以外はいつでも出来るようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや、採光の状況によりカーテンを閉めるなど、又3月ならお雛様を1階・2階・3階とそれぞれ飾って、季節感を出している。	各ユニットの玄関に面しスタッフルームが配置され、利用者の出入りや訪問者の対応がしやすい配慮がされている。共用空間のリビングや廊下、3箇所あるトイレ等は清潔に維持されている。リビングからの掃出し窓は広く明るく、周囲の山・学校・住宅等にある季節感のある樹木や花の風景が楽しめる。この時期は桜が満開であった。利用者の手作り作品や記念の写真、カレンダー等も展示され生活感が垣間見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にソファーに座ったり(1人・3人など)と狭い空間の中で好きなようにしてもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学时に居心地の良さ・なじみのものなどの話を伝えてお願いして、居室の入口には名札をつけて本人がわかるように工夫している。	居室の設えは、エアコン・洗面台・ナースコールがあり、ベット・寝具・カーテン・カーペット等は利用者が用意する。今までの生活で使い慣れた馴染の家具やテレビ・時計・調度品等も持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。各居室の入り口には、本人が分かりやすい表札も工夫されている。掃出し窓からはバルコニーに出られ、防災の避難口としても配慮されている。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階から3階に物(配達された肉・魚など)を配達してもらったりしている。		